
『立命館地理学』投稿規程

(2019年11月30日改定)

原稿を投稿しようとする会員は、機関誌『立命館地理学』最終ページにある原稿送付状を必ず添付し、原稿・図表などを本学会編集委員会宛に送付すること。E-mailでの投稿は原則として認めない。投稿の詳細については、以下の執筆要領を参照すること。論文は編集委員会による閲読の結果、改訂を求められることがある。

掲載論文等の著作権は立命館地理学会に移譲される。移譲およびWeb上でのPDF公開に同意なき場合は投稿を受け付けない。

なお、英文での投稿を希望する会員は、編集

委員会にあらかじめ連絡することをお願いしたい。

【送り先】

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

立命館大学文学部地理学教室内

立命館地理学会 編集委員会

Tel: 075-465-7869・1957

Fax: 075-465-8296

E-mail: geojimu@st.ritsumeiji.ac.jp

『立命館地理学』執筆要領

(2019年11月30日改定)

I. 原稿の種類

投稿できる原稿の種類は次の5つである。

展望：研究史を踏まえて新たな展開を見通した論文。

論説：未発表のオリジナルな研究論文。

短報：研究・調査の中間報告、資料など。

書評：内外書籍の紹介と批評。

その他：特集論文、翻訳など。

※カテゴリーとして「京都地域研究」があり、「論説」、「短報」が選択できる。

II. 原稿の構成

原稿は横書きとする。原則としてデジタルデータと、打ち出し原稿を準備すること。原稿はA4判用紙に作成すること。

表題・著者名・勤務先または所属名・日本語キーワード・英語キーワード・本文・注・図・写真・表から成るものとする（必要に応じて謝辞・付記を付ける）。

※英文の場合は、日本語のタイトル・著者名・勤務先または所属名と和文要旨を原稿末尾に加える。

III. 原稿の長さ

展望：本文・注を合わせて、14,000字以内（1頁40字×20行）。

図・表・写真は、印刷後の仕上がり寸法で、合計 B5 判 3 頁以内。

論説：展望に準ずる。

短報：本文・注を合わせて、8,000 字以内（1 頁 40 字× 20 行）。

図・表・写真は、印刷後の仕上がり寸法で、合計 B5 判 2 頁以内。

書評：本文 4,000 字以内（1 頁 40 字× 20 行）。

図・表・写真は、入れることができない。

その他：特集論文や翻訳については編集委員と協議のうえ原稿の長さを決定する。

※英文の場合は、A4 判ダブルスペースで原稿を作成し、分量は和文に準じる。

IV. 本文

章の見出しは、I、II のように付けることを原則とし、節以下の見出しは、特に定めないものとする。

注番号は、該当箇所の右肩に、1)、2)、3) のように片括弧付きの全編通し番号で記入すること。

V. 注

本文の最後に、改行の上続いて記述すること。注の中に、図・表を入れることはできない。引用文献の注中への記載方法は以下の通りとすること。

(1) 共通事項

著者名：共著の場合は、全著者名を列記することを原則とするが、3 名以上の場合は、他何名（欧文の場合は *et al.*）と略記することも可。

編著名：共編は、共著の場合に準ずる。

書名：叢書の中の 1 冊の場合は、書名の後に叢書名を添記すること。

（例）松村郁栄（2006）『濃尾震災（シリーズ日本の歴史災害 3）』、古今書院。

(2) 単行本（アルファベット表記の場合は書籍名をイタリックとする）

引用頁：和文では頁数の後ろに「頁」、欧文では前に「p.」あるいは「pp.」と記載する。ただし、書籍全体を参照した場合、総頁数は記載しなくてよい。

（例）野間晴雄（他 5 名と共著）（2017）『第 2 版 ジオ・パル NEO—地理学・地域調査便利帖—』、海青社、10 頁。

（例）Woods, R. (2011) *Rural*. Routledge, p. 11.

（例）Gregory, D. (1994) *Geographical Imaginations*. Blackwell.

〔和文〕著者名（刊行年）『書名』、発行所名（、引用箇所の掲載頁）。

（例）平岡昭利（2014）『アホドリと「帝国」日本の拡大—南洋の島々への進出から侵略へ—』、明石書店、108-114 頁。

〔欧文〕著者名（刊行年）書名・発行所名（、引用箇所の掲載頁）。

（例）Urry, J. and Larsen, J. (2011) *The Tourist Gaze 3.0*. SAGE, pp. 30-31.

(3) 論文（論文名はキャピタライゼーション不要、アルファベット表記の場合は書籍名をイタリックとする）

引用頁：和文では頁数の後ろに「頁」、欧文では前に「p.」あるいは「pp.」と記載する。ただし、論文の全体を参照した場合は、最初の頁と最後の頁を示し、「頁」や「pp.」を付けなくてよい。

① 雑誌・紀要論文

〔和文〕 著者名（刊行年）「論文名」、雑誌・紀要名、巻号数、（引用箇所）掲載頁。

（例）佐藤善輝・小野映介（2017）「伊勢平野中部、志登茂川左岸における浜堤列の発達過程」、
地理学評論、90(5)、475-490。

〔欧文〕 著者名（刊行年）論文名、雑誌・紀要名、巻号数、（引用箇所）掲載頁。

（例）Longley, P. A., Adam, M. and Lansley, G. (2015) The geotemporal demographics of Twitter
usage, *Environment and Planning A*, 47, 465-484.

② 単行本中の論文

〔和文〕 著者名（刊行年）「論文名」、編者名『書名』、発行所名、（引用箇所）掲載頁。

（例）山本健太（2015）「芸術・文化鑑賞者の行動特性とインターネット利用の実態」、荒井良
雄・菅本健二・和田 崇編『インターネットと地域（シリーズ21世紀の地域1）』、
ナカニシヤ出版、151-168。

〔欧文〕 著者名（刊行年）論文名、in 編者名 ed.（複数の場合は eds.）書名・発行所名、（引用箇所）掲載頁。

（例）Stone, P. R. (2011) Dark tourism experiences: Mediating between life and death, in Sharpley, R.
and Stone, P. R. eds. *Tourist Experience: Contemporary Perspectives*. Routledge, 21-27.

③ 訳書

引用頁は単行本に準じる。

著者名（訳者名）（刊行年）『書名』、発行所名、（引用箇所）掲載頁。

（例）アルドリッチ, D. P. (石田 祐・藤澤由和訳) (2015) 『災害復興におけるソーシャル・キャ
ピタルの役割とは何か—地域再建とレジリエンスの構築—』、ミネルヴァ書房、98頁。

(4) ウェブサイト

ウェブサイトのアドレスを記載する際には、末尾に閲覧年月日を明記すること。

（例）立命館大学文学部地理学専攻ホームページ <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/cg/lt/asp/geo/index.html> 2017年10月30日閲覧。

(5) その他

① 同一の文献を複数回引用する場合

2回目以降の引用では、初出の注番号を提示して「前掲1）、引用頁。」のように記す。

（例）1) 足利健亮（1985）『日本古代地理研究』、大明堂、144-161頁。

2)

3) 前掲1)、179頁。

② 1つの注に複数の文献を挙げる場合

以下のようにそれぞれの文献に番号を付して列記する。

（例）1) ①伊豫谷登志翁編（2007）『移動から場所を問う—現代移民研究の課題—』、有信堂。

②カプラン, C. (村山淳彦訳) (2003) 『移動の時代—旅からディアスポラへ—』、未来社。

③吉原直樹（2008）『モビリティと場所—21世紀都市空間の転回—』、東京大学出版会。

VI. 図（写真）および表

(1) 図

- ① 本文とは別の用紙に作成すること。
- ② 図番号：図と写真には、第1図、第2図という形式で、共通の通し番号を付けること。
- ③ 表題：図番号の次に並べて書くこと。
- ④ データで作成できない場合は、トレーシングペーパーまたは製図用紙を使用すること。
- ⑤ 図中の注記文字を鉛筆書きする場合は、図の上にトレーシングペーパーを掛け、該当箇所に文字を墨書きし、文字の大きさや種類（明朝、ゴシックなど）を朱書きで指示すること。
- ⑥ 投稿された原図が、そのままでは技術的に製版できない場合は、書き直しをお願いするか、幹事会において製図し直し、製図代の納入をお願いすることがある。
- ⑦ 刷り上がりは、指定がない場合原則単色（白黒）となる。カラー印刷を希望する場合、該当の図・写真にカラー指定を明記すること。なお、カラー印刷での掲載可否については、編集委員会がこれを判断する。カラー印刷に必要な経費を著者に求めることがある。

(2) 表

- ① 本文は別の用紙に作成すること。
- ② 表番号：第1表、第2表という形式で、表のみに関する通し番号を付けること。
- ③ 表題：表番号の次に並べて書くこと。
- ④ 印刷後の仕上がり寸法で、B5判1頁以内に収まらないような大きい表は、分割するなどの方法を講ずること。

VII. その他

(1) 英文タイトル

裏表紙のCONTENTSに掲載するため、英文のタイトル（英語に限る）とローマ字書きの氏名を原稿の末尾に記載すること。

(2) 外国語レジュメ

希望により外国語（欧文以外も可）のレジュメを付けることができる。長さはA4判にダブルスペースでタイプしたものを2頁以内に収めること。欧文以外の外国語の場合もこれに準ずる。なお、レジュメの内容については、編集委員会では一切責任を負わないので、投稿者の責任で然るべき校閲を経たものを提出すること。

(3) キーワード

原稿の末尾に、日本語キーワードと英語キーワードをそれぞれ5語程度付けること。

(4) 作成したデータは、CDやUSBなどのメディアに保存し、打ち出した原稿を投稿する際に添付すること。なお、ファイル作成に使用したソフト名・機種名（例えば、Windows, Word 2016など）を表記すること。

(5) 編集委員会による閲覧用に、投稿原稿一式のコピー1部を必ず添付すること。

(6) 抜刷

必要部数を原稿送付状所定欄に明記すること（30部まで無料で寄贈、超過分は著者の負担）。